

ポット栽培における鉢サイズの違いがランンキュラスの切花形質・収量に与える影響

板橋優人・岡澤立夫

(園芸技術科)

---

【要 約】ランンキュラス「エレガンスピンク」のポットを用いた切花栽培において、5号鉢サイズが形質、収量、栽培コストのいずれにおいても優れる。

---

【目 的】

近年の鉢物単価・生産量の低下に対し、都内直売で売上が堅調な切花の導入は鉢物の代替手段として有効と考えられる。導入経費や普及性の観点から、切花栽培において鉢物生産技術を活かすために既存ベンチの利用が望まれるが、ポットでの切花栽培技術は確立されていない。そこで本研究では、都内で需要が高く生産量の多いランンキュラスを用い、花農家の間で使用が多い鉢サイズ(3.5号～5号)の切花形質への影響を明らかにし、ポット栽培への適性を評価する。

【方 法】

ランンキュラス「エレガンスピンク」の中球球根を2021年10月5日から10月12日まで吸水処理(暗黒・5℃)し、処理後1日室温で順化させた後、同月14日に3.5号(以下、3.5号区)、4号(以下、4号区)、5号(以下、5号区)1株鉢上げし、その後はパイプハウス内で栽培、12月9日より5℃加温を行った。開花調査は1輪開花時に行い、花卉が水平になった時点を開花とした。供試株数は区あたり24株で行った。

【成果の概要】

1. 鉢サイズの違いにより、明らかな生育差が生じ、(図1)切花形質にも大きな影響を与えた。平均採花日は5号区と3.5号区で約1週間の開きがあり、鉢サイズの大きい区でより開花が早かった。切花形質の各項目は鉢サイズが大きくなるにつれ、大きい値を示した(表1)。特に、切花長(平均値)で顕著に差が表れ、5号区で最も長くなり各区間で有意な差が認められた(表1、図2)。
2. 1株あたりの採花本数は3.5号区と4号区で差が小さく、5号区では他区の約2倍採花できた。出荷規格達成率では3.5号区と比べて5号区で高くなり約10倍であった。栽培コストは5号区が最も安く(表2)、灌水労力も5号区で最も少なかった(データなし)。総合評価では、切花形質・収量に問題がなく、栽培コストも掛からない5号区を高評価とした(表2)。
3. 以上より、ランンキュラス「エレガンスピンク」において、鉢サイズが大きくなるほど開花が早く、切花長など切花形質が優れた。また、5号鉢では3.5号、4号鉢と比べ出荷規格を達成した収量が顕著に多く、面積あたりの栽培コストも低く抑えられた。これらのことから、5号鉢サイズがランンキュラスのポット栽培で最も適すると判断した。

【残された課題・成果の活用・留意点】

マニュアル化に向けて、他の品目についてもポット栽培を検討する。



図1 試験区による生育の違い

注1) 左: 3.5号区, 中央: 4号区, 右: 5号区  
 注2) 鉢上げ用土は赤土: 腐葉土: ピートモス=5:3:2 (容積比)の混合用土とし, 基肥は用土100Lあたり, 被覆複合肥料 12-10-11 (マイクロロングトータル 100 日タイプ)=300g, 化成肥料 6-40-6 (マグアンプK中粒)=200g, 過リン酸石灰 0-17-0=250g (用土 100L あたり成分量で N=48g, P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>=152g, K<sub>2</sub>O=45g) を予め施用した。  
 注3) 灌水は鉢土の表面が乾いた時点で上面より行った。  
 注4) フラワーネットは使用しなかった。



図2 各区の切花の様子

注1) 左: 5号区, 中央: 4号区, 右: 3.5号区  
 注2) 図中の白線は10cm

表1 鉢サイズの違いがラナンキュラスの切花形質に与える影響

試験区	平均 採花日 (月日)	切花形質					
		切花長 (cm)	切花重 (g)	調整率 <sup>a</sup> (%)	茎径 <sup>b</sup> (mm)	着蕾数 <sup>c</sup> (個)	花径 (cm)
3.5号区	3月7日	35.3 c	10.0 b	17.2	4.2 b	0.7 b	6.3 b
4号区	3月3日	41.4 b	13.5 b	23.5	4.6 b	1.0 ab	6.5 b
5号区	3月1日	45.7 a	19.2 a	28.1	5.5 a	1.1 a	6.8 a

注1) 異なる英文字間には, Tukey Kramer 法により1%水準で有意差あり  
 注2) 追肥は12月5日, 12月15日にトミーグリーン液肥1000倍を100mL/鉢(3.5号区, 4号区)および200mL/鉢(5号区)で, 12月23日にスーパーIBを1g/鉢(全区)で, 2月16日にオスモコート(1g/鉢(全区))で行った。  
 a) (調整重(50cmを超えた場合は50cmに切り揃え, 下葉は1/4を取り除いた。)/切花重×100) -100により算出  
 b) 下から5cmの太さ  
 c) 1cm以上の蕾をカウント

表2 鉢サイズの違いがラナンキュラスの収量に与える影響

試験区	栽植 密度 (鉢/a)	採花 本数 <sup>a</sup> (本/鉢)	出荷規格 達成率 <sup>b</sup> (%)	収量 <sup>c</sup> (本/a)	栽培コスト			総合 評価 <sup>f</sup>	健全 花率 (%)
					種苗費 <sup>d</sup> (円/a)	肥料代 <sup>e</sup> (円/a)	計(円)		
3.5号区	833	5.8	5.7	276	55,550	1,918	57,468		89
4号区	616	6.3	23.7	919	40,600	2,102	42,702		87
5号区	425	10.3	54.3	2,378	28,350	2,936	31,286	○	79

a) 奇形花を除いた値  
 b) 区あたり出荷規格(切花長45cm以上)を満たした株/区あたりの調査株数×100(%)で算出(2反復の結果を平均化)  
 c) 栽植密度×1株あたり採花本数×出荷規格達成率でaあたりの収量を算出  
 d) 「エレガンスピンク」中球球根50円/球として算出  
 e) マイクロロングトータル100タイプ 0.88円/g, マグアンプK中粒 0.69円/g, 過リン酸石灰 0.12円/gとして算出  
 f) 収量をもっと高く, 栽培コストが安い5号区を○とした。